

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174900553		
法人名	(有)ひまわりの家		
事業所名	ひまわりの家		
所在地	埼玉県秩父市山田2699		
自己評価作成日	平成21年3月25日	評価結果市町村受理日	平成22年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成22年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内外共に全職員が暖かい家庭的な雰囲気を大切にしております。地域の方やご面会者にとって立ち寄りやすい施設を心がけております。一人ひとりの利用者の希望と個性を大切にし、身だしなみ(清潔、化粧等)にも気をつけ明るく楽しく、又食の安全を考えたの食生活をモットーに介護支援することに力を注いでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく健やかで、笑い声の絶えない事業所運営が行なわれている。
事業所理念「日々の暮らしの中で、生き生きと輝きをもって、その人らしく生活できるよう質の良い介護支援を目標に共に歩いていきたい」の実践に取り組まれている。元気なあいさつに始まり、女性を中心とした利用者のお化粧や身だしなみ、家族もできないと思っていた編み物への挑戦、ボランティアの方と一緒に楽しむ日本舞踊やカオケ、職員と共に大きな声を出しての指折り体操、ボール投げ、竹踏み健康体操など、利用者のみなさんが生き活きと輝き溢れる楽しい時間をつくられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創立当初から変わることなく、経営者の思いが込められた理念が作られており、スタッフ一人ひとりが理念を意識し、実践につなげています。	理念を定例のミーティングや会議で話し合わせ、利用者が生き生きと輝きをもって、その人らしい生活ができるよう質の高い支援を目標として、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年は新型インフルエンザの影響で納涼祭が中止になりましたが、施設の行事には大勢の方が見え交流させて頂いています。地域の方が畑での収穫物や手作りのものを届けてくださります。また、地域のイベントにも参加しております。	自治会に加入し、長寿会の方からは手づくりのビース飾りや折り紙の駒などプレゼントがあり、地域住民からは季節の花や野菜をいただくなどされている。また、小学校の児童やボランティアとも活発に交流を図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域高齢者や地域の方々の中で多種多様な介護サービスについての疑問・相談について迅速に対応させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会の役員の方、民生委員、家族、市役所の職員の方に施設へおし頂き、施設に対して要望又はご意見を交換しサービスの向上に努めています。	定期的に開催され、防災対策、事業所特性や利用者の理解を深めていただく取り組みなど、各回テーマを決め、有効的な会議運営をされている。また、参加者の意見も事業所運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に対して運営推進会議等、市の職員、民生委員の方、地域役員の方々に積極的に声掛けし、行き来する方向で取り組んでいます。	地域密着型サービス事業者協議会の会合や研修時のほか、申請手続き時や報告、相談などの機会にコミュニケーションを図り、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の研修等に参加し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の鍵は安全性を考慮してかけていますが、屋外での活動時や状況に合わせて対応しています。	市主催の研修や内部研修で「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに、身体拘束の内容とその弊害について学ばれ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	折りに触れて朝礼、スタッフ会議等を通じ、虐待防止の厳守に向けた意見交換、取り組みをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者、個々の家族状況に於いて対応が必要と思われる利用者に対して、関係者と相談、アドバイスいただき本人が納得、理解をして支援し、制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の方が契約に関する内容を理解し納得いくまで説明の上同意して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は問題があった時、迅速に対応しています。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは面会時などに意見や提案の聴き取りが行なわれている。その意見や要望を職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的には問題があった時、皆で意見交換し、その都度対応しております。	職員が自由に発言できるオープンな環境がつけられ、お風呂の手すりの追加やテーブルの席次替え、食事の時の前傾姿勢の改善策など、職員提案が具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心掛けています。夜間帯についても対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議時に必要や要望に応じて色々な資料を基に勉強会をしています。段階の応じた研修を受けられるようスタッフに理解していただき計画しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡市GH協議会や相談員連絡会などに参加し同業者との交流の機会を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えに傾聴し本人がストレスを溜めないよう日々のケアを行い、安心して頂けるよう信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がゆっくり相談できる場の設定をし、お話しや訴えをしっかり聞き、不安なく施設を利用できるよう説明をさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴を知り、生活の歩み、認知症の症状の出現状況の把握をしている。本人の気持ちの理解の必要とされる援助をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人格を尊重し、利用者が得意とする趣味等を通してスタッフも学ばせていただいています。日常的な作業においても本人の意志により一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話等にて家族との対話を心掛け問題解決に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの会話にて、過去の生活の中で関わってきた人会いたい人等をたずねています。また、家族との連絡を密にして、ご本人と面会される方向へと努めています。	家族の協力を得ながら、知人や友人或いは遠く離れたご兄弟に会いに出かけるなど支援されている。また、一人住まいで留守となっている自宅に帰り、隣人の方々と旧交を温めるなどの支援も行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的、利用者同士のいさかいは少なく、利用者同士の助け合いや声掛けも行われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者への面会及び家族の方との交流は続いており、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望や意向を把握する様努め、その都度対応しています。本人の希望に添える様努めています。	思いや意向の把握が難しい利用者については、日頃の関わりから汲みとるほか、利用者の生活歴を振り返り、習慣、好みなどを把握し、取り組まれている。編み物を勧めたことにより、生き生きと作品づくりをされ、他利用者への広がりも見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の様子等家族に伺い今までの経過の近づけるよう協力をして頂いています。面会時等にはその人の現状や経過などの情報交換を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティング等で情報交換を行い、その人の心身の状態、近況について話しあっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に利用者、家族、その他関係者と話し合い介護計画や日常の業務にも活かし、現状に即した介護計画に努めています。	利用者・家族との関わりを持つ関係職員がモニタリングやカンファレンスに参加し、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性について定期的に話し合いをし、日々の記録向上に努めています。情報を共有しながら実践し介護計画に反映できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の気持ちや家族の状況踏まえ、その時々々の要望に応じるように努めています。また、急激な生活環境の変化を避けるよう柔軟な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事等に地域の方々にも参加していただき、協力的にお声がけを頂いております。また、近隣の方が随時ボランティアで足を運んでくださいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の気持ちを最優先にし、家族の協力も頂きながら話し合いを持ち適切な医療を受けられる様支援しています。	入居時に本人や家族の希望を尊重し医療機関の選択をしていただいている。専門のかかりつけ医の受診支援も適宜行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医淳機関の看護師さんと利用者一人ひとりの状態や日常の健康管理についても積極的に相談し、情報交換しながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族にも安心していただける様、定期的に面会をし、入院した利用者との会話を通し、状態の把握に努めながら今後の方向性を検討しています。また担当医と今後について相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族が十分な時間をかけて考えて頂き結論を出して頂ける様支援しています。それに対して職員がどう対応していくか話し合い検討しています。	過去に重度化や終末期への対応は事業所として経験はされている。医師との連携体制は整備されているものの事業所の対応力は逐次変化するものであり、家族と話し合いのもと、できる範囲での対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えて随時対応についての研修および情報交換を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時の任務分担があり、火災訓練等も実施しています。	年2回の避難訓練を実施し、夜間の発生を想定しての訓練にも取り組まれている。また、運営推進会議で防災防火安全対策や地域との連携体制整備に向けた話し合いも行なわれている。	災害時、職員だけでの誘導の限界を踏まえ、地域協力員の確保及び年間を通しての防災意識の高揚を図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言動や個人情報の取扱いには十分注意を払うよう職員全員が徹底しています。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重を大事にしています。時間をかけて自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースに合わせその人らしく生活して頂ける様、日頃より支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っております。その人らしいおしゃれが楽しめられるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使った利用者の好みに合わせた調理を心掛けています。また、準備片付け等も利用者に協力して頂いています。	利用者個々の方に合わせ、料理の下準備や片付けを職員と共に行っている。月1回「外食の日」には、レストランでロシア料理を楽しまれている。手づくりおやつや差し入れの旬の野菜を調理するなど、季節感を大切にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の業務の中で一人ひとりの状態(食分量、水分量等)の把握し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じたケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声掛けを行っています。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状態を把握し、水分摂取や運動を促しています。また、日課である竹ふみを行うことが習慣づいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂けるよう十分な時間をとって頂いています。その人にあった入浴方法介助の方法を把握して対応しています。	入浴日や時間は設定されているが、利用者の希望に沿った支援をされている。また、体調不良で入浴できない場合は、手・足浴や清拭など状況に合わせて対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせて安心して休んで頂けるような環境づくりや対応を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の取扱い等は全職員が薬の説明、目的等把握できるようにしています。また日々の記録や申し送り等で症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生きがいを持って生きていけるよう個人の趣味や特技をいかしたレクを楽しんでいただいています。その中で本人の役割を見出していけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添える様、天候や体調に合わせて外出しています。	事業所周辺への散歩のほか、利用者の希望に沿い、スーパーやドラッグストアでの買い物、また、近くの札所に手づくり弁当持参で出かけ、寺の住職と共に季節の花や紅葉など楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により金銭管理を行っています が、職員の管理希望の方には本人の要望があればいつでも使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節ごとに装飾を置き、季節感を感じていただける様配慮しています。不快な音や光については利用者に伺いながらその都度対応しています。	利用者に季節を感じていただくことを基本とし、桃や桜など季節の生花が活けられている。利用者や職員の似顔絵入りの季節ごとのカレンダーも飾られている。広々とした陽だまりフロアにはこたつとソファが置かれ、好みの音楽も流れ、居心地良く、ゆっくり過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・ホール・居室等を自由に使用されゆつくりと時間を過ごすことができる様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物を持って来て頂いています。また、利用者の好みで自分の居場所を自由に作って頂いています。	家族の写真や自作の編み物の花飾りなどが飾られているほか、馴染みのものが持ち込まれて、居心地良く過ごされるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレの場所への表示等サンプルに分かりやすくしています。入居者のADL・認知度等様々ですので、自立した生活、本人の力を維持できる様配慮しています。		

(別紙4(2))

事業所名 ひまわりの家

目標達成計画

作成日: 平成 22年 5月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策	協力員の確保及び毎月防災の点検	協力員の確保は近隣の方をお願いする。防災の点検は防火管理者が毎月行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。